

「蝶々夫人」参考資料のご案内

新国立劇場でのご観劇前には作品に対する理解の一助として、
また、観劇後の感動をさらに深めるために、
5階情報センター閲覧室にてご覧いただける参考資料を紹介します。
ぜひお気軽にお立ち寄りください。

過去の公演プログラム

1998/1999 SEASON **蝶々夫人** (1998.4) / **高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人** (1999.7)
1999/2000 SEASON **蝶々夫人** (1999.12) / **高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人** (2000.7)
2000/2001 SEASON **蝶々夫人** (2001.6)
栗山昌良演出によるプロダクション。

2004/2005 SEASON **蝶々夫人** (2005.6) / **高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人** (2005.7)
2006/2007 SEASON **蝶々夫人** (2007.3) / **高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人** (2007.7)
今回のレパートリー作品である栗山民也演出によるプロダクション。

参考図書

<対訳>

プッチーニ 蝶々夫人 (オペラ対訳ライブラリー) 戸口幸策=訳/音楽之友社 2003年発行
台本テキストを数行単位で原語と日本語訳交互に記載しているので、CDやDVDを鑑賞しながら原文と訳文を同時に追うことができる。イタリア語の文法解説つき。

対訳 マダム・バタフライ (Madama Butterfly Musica di Giacomo Puccini)

河原廣之=編集・校閲・注釈/オペラ読本出版 2004年発行

著者はスカラ座やフィレンツェ歌劇場日本公演の主任通訳を務め、二期会、オーチャードホールなど全国の主要歌劇場でイタリア語ディクションの指導、演出にかかわる傍ら、40冊を超えるオペラ対訳書を出版している。

蝶々夫人 (イタリアオペラ対訳双書 19)

かわはら洋 ほか=訳/アウラ・マーニャ イタリアオペラ出版 1987年発行

<作品関連>

原作 蝶々夫人 ジョー・ルーサー・ロング=著/古崎 博=訳著/長崎ウエスレヤン短期大学 1981年発行
1898年発表。ロングの実の姉ジェニー・コレルが宣教師の夫とともに長崎に居住時に目撃した、アメリカ人船員と日本人女性の恋愛話と、同じく長崎が舞台の小説『お菊さん』などからイメージを膨らませて書き上げたといわれる。

蝶々夫人を探して 歴史に見る心の国際交流

ブライアン・バーグガフニ=著/かもがわ出版 2000年発行

長崎における外国人男性と日本人女性の関係といった歴史的背景、ロティの小説『お菊さん』に描かれた日本、原作者ロングの姉ジェニー・コレルを取り巻く環境など、あらゆる角度から『蝶々夫人』という作品を浮き彫りにした書。

オペラ 蝶々夫人のことが語れる本 金子一也=著/明日香出版社 2004年発行

「蝶々夫人」のモデルを追うとともに、背景である20世紀初頭の近代日本の成立とその時代に生きた女性の悲劇を明らかにする。「蝶々夫人」の謎に迫る意欲作。

音楽写真文庫 蝶々夫人 宮沢縦一=著/音楽之友社 1961年発行

Madama Butterfly 1904-2004 出版:RICORDI 伊・英語 2004年発行

『蝶々夫人』初演 100周年を記念して刊行された、「蝶々夫人」に関する評論や、ロングの原作、ペラスコの同名戯曲の英訳とともに、装置デザイン画、衣裳スケッチ、ポスター、舞台写真等も掲載した図録。

プッチーニのすべて 名作三大オペラ「トスカ」「ボエーム」「蝶々夫人」

宮沢縦一＝著／芸術現代社 1990年発行

ヴェルディ／プッチーニ(作曲家別名曲解説ライブラリー) 音楽之友社＝編／音楽之友社 1995年発行

NHK 知るを楽しむ この人この世界 オペラ偏愛主義 島田雅彦＝著／日本放送出版協会 2008年発行

NHK 教育テレビで放送した番組のテキスト。「忠臣蔵」「Jr・バタフライ」と自らオペラ台本を手掛けるほどの大のオペラ通の作家・島田雅彦がオペラの魅力を徹底的に語る。第5回で「オテロ」の悪役イアーゴを取り上げている。

恋するヒロイン オペラにみる愛のかたち 中野京子＝著／株式会社ショパン 2005年発行

愛に生きたひとりの女性として、いまよみがえるオペラのヒロインたち。「第十二章 強い女性」でトスカを取り上げている。

傑作オペラはこうしてできた ミルトン・ブレナー＝著／白水社 1999年発行

オペラは舞台より楽屋のほうがおもしろい。名作オペラの背後にはなまぐさい人間ドラマがある。巨匠が作るオペラの影に隠された思いがけないエピソードの数々を公開。(『蝶々夫人』は第23章「謎めいた失敗」で記述)

<作曲家関連>

プッチーニが語る自作オペラの解釈と演奏法

ルイジ・リッチ＝著／三池三郎＝訳／音楽之友社 2007年発行

プッチーニが自ら自作について語った正確な記録。解説されているオペラは『マノン・レスコー』『ラ・ボエーム』『トスカ』『蝶々夫人』『西部の娘』『つばめ』三部作。訳者による綿密な研究資料付き。

ジャコモ・プッチーニ 生涯と作品 ジュリアン・バッデン＝著／大平光雄＝訳／春秋社 2007年発行

最新の研究成果に基づく本格的評伝。楽曲構成を台本との関わりから詳細に分析しつつオペラ創作の知られざる経緯・背景を詳述。

評伝 プッチーニ その作品・人・時代

ウィリアム・ウィーヴァー シモネッタ・プッチーニ＝編著／大平光雄＝訳／音楽之友社 2004年発行

定評ある17名のプッチーニ研究者によるエッセイ。プッチーニの孫が編纂に参加し、詳細な家系図や関連人物一覧が添付され、プッチーニの実像にせまる書物として評判になった原著「The Puccini Companion」の完訳。

ジャコモ・プッチーニ 星出豊＝著／知玄舎 2003年発行

プッチーニが遺した2000通もの手紙のなかに、彼の楽譜に書かれていない作品の意図があると確信した著者が、数々のプッチーニ・オペラを指揮した体験を通して著した独創のプッチーニ論。プッチーニの十戒や戦時中にヨーロッパを席卷した希有の日本人コロラトゥーラ・ソプラノ、テイコ・キワ(喜波貞子)の蝶々夫人などにも言及。

vissi d'arte, vissi d'amore PUCCINI vita, immagini, ritratti

出版:Grafiche STEP, Parma 伊語 2003年発行

現在イタリアでプッチーニ本といえば、これをまず薦められるとか。豊富な写真・図版でプッチーニの作品・生涯を辿る。イタリア語のみ。

イタリア・オペラの黄金時代 ロッシーニからプッチーニまで

ウィリアム・ウィーバー＝著／音楽之友社 1998年発行

ロッシーニ『セビリヤの理髪師』初演の1816年から、プッチーニ『トゥーランドット』初演の1926年までの間に、現在親しまれているイタリア・オペラの全てが生まれている。本書はこの110年間を、興味深いエピソード、当時の社会情勢も織り込みながら、作曲家、歌手、出版社、指揮者などオペラを取り巻く様々な人々の姿に迫る。図版も豊富。

かくも罪深きオペラ スキャンダラスな名作たち 中野京子=著/洋泉社 1999年発行

『蝶々夫人』の誕生の陰には、交通事故で車椅子生活となったプッチーニと彼に献身的に仕える住み込みの家政婦との恋愛があった。他にも『カルメン』『フィガロの結婚』『椿姫』をはじめ全8オペラの〈裏〉物語を綴る。

THE COMPLETE OPERAS OF PUCCINI : A CRITICAL GUIDE

Charles Osborne=著/Da Capo Press 英語 1981年発行

プッチーニ 生涯・芸術(上巻) / 作品研究(下巻)

モスコ・カーナ=著/加納 泰=訳/音楽之友社 1967-68年発行

プッチーニ(作曲家◎人と作品シリーズ) 南條年章=著/音楽之友社 2004年発行

公演記録映像

蝶々夫人 (1998.4.14) 【字幕入り】 蝶々夫人:林康子、ピンカートン:アルフレート・ポルティエヤ

蝶々夫人 (1998.4.10) 【字幕なし】 蝶々夫人:松本美和子、ピンカートン:アレクセイ・レプチンスキー

蝶々夫人 (1999.12.18) 【字幕入り】 蝶々夫人:渡辺葉子、ピンカートン:アルベルト・クビード

蝶々夫人 (2001.6.7) 【字幕入り】 蝶々夫人:ヴェロニカ・ヴィツラロエル、ピンカートン:マリオ・マラニーニ

蝶々夫人 (2005.6.24) 【字幕入り】 蝶々夫人:大村博美、ピンカートン:ヒュー・スミス

蝶々夫人 (2007.3.31) 【字幕入り】 蝶々夫人:岡崎他加子、ピンカートン:ジュゼッペ・ジャコミーニ

鑑賞教室 蝶々夫人 (1998.7.15) 【字幕入り】 蝶々夫人:佐藤ひさら、ピンカートン:福井敬

鑑賞教室 蝶々夫人 (1999.7.14) 【字幕入り】 蝶々夫人:小濱妙美、ピンカートン:池本和憲

鑑賞教室 蝶々夫人 (2000.7.17) 【字幕入り】 蝶々夫人:池畑都美、ピンカートン:池本和憲

鑑賞教室 蝶々夫人 (2005.7.13) 【字幕入り】 蝶々夫人:関定子、ピンカートン:水口聡

鑑賞教室 蝶々夫人 (2007.7.9) 【字幕入り】 蝶々夫人:橋爪ゆか、ピンカートン:成田勝美

DVD

蝶々夫人(映画版) (74 ヘルリン) 蝶々夫人:ミレッラ・フレーニ、ピンカートン:ブラシド・ドミンゴ